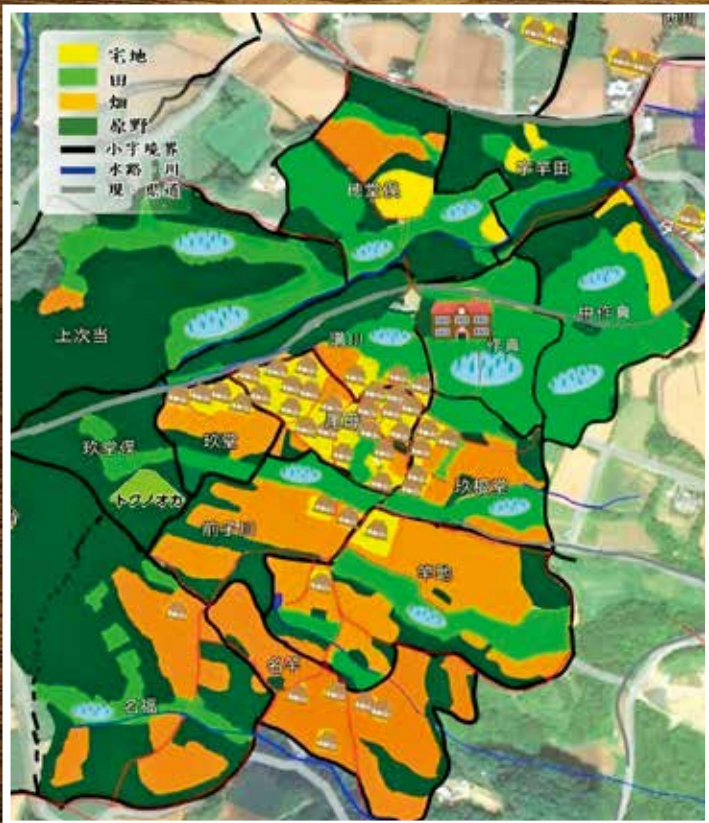


島のむんがたり

尾母の歴史散歩
(尾母集落復元)

前回(12月号)では、尾母の概観と歴史を振り返りました。今回は、150年前に作成された「竿次帳」という土地台帳をもとに、尾母集落の復元を試みてみました。地形が大きく違ってきますので、もちろん正確にはいきませんが、概ねの姿はわかると思います。宅地(49筆※内1筆は図面外)が存在する集落中心部を地図化しました。



標高約180mに位置する尾母ですが、泉が10か所もあって生活水には困らなかつたといわれています。ただし田水としては足りませんので、江戸時代から白井集落に隣接する都田鼻トダノシの湧水池から樋を引いて使用していました。水路は溝川ミヅノガハ神社の横まであって、その隣に広がる田んぼには祀り田があつたそうです。

復元図からは、小学校敷地(明治35年開校。42年に前子川ミナシキヨから尾母に移転。※現・駐車場。宅地が並んでいた。)の周辺に、大きな田んぼが広がっていたのがわかります。こ

のほか、大谷山の西側で本川の上部にあたる浅田渡アサタラタと浅田という地区にも田んぼが広がっています。それ以外の地区は谷状地形が多く、原野が広がっていました。

現在は家々が立ち並ぶ3町内(前子川)には宅地が2筆しかなく、穂堂保フドウマタや宇卒田ウツシヨダに当時まだ人が住んでいません。細々とした生活路だけだった集落に県道や町道が走り、農地開発が進んで原野だったところが農地になっています。復元図に県道、学校、神社を入れましたが、これは昔の集落がどのような風景だったのかイメージしやすくするためです。

明治以降の150年間は、工業の急速な発達とともに集落と周囲の環境が大きく変化した時代でもありました。歴史資料を読んでも、景観の変化が著しいために理解しづらかったり、錯覚したりすることがよくあります。今後機会がありましたら、このような集落復元図の制作に取り組んでみたいと思います。

【町誌編さん室 米田博久】

問 郷土資料館

☎0997-82-2908